

豊後守藤原康紀ヤシキは豊後守康重ヤシヒの長
子なりしをくわき次郎とす天正九年
東照宮初諱字と賜はり康紀ヤシキ若菜ニギハヤヒ
慶長六年十二月従五位下に叙し伊勢守に
任じ同十六年父の遺跡と詔され豊後守
に任じしをくわきを後大板友友の初陣に従
ひ奉り元和九年九月廿六日四十五歳に
く卒す

一 慶長十九年の冬、大坂に陣し、康紀兵
と申す、めて備前藩に攻め、後作と
申す、天王寺表とせ、兵と麾下の先陣
に張る 寛永藩

一 慶長十九年、大坂に陣し、
東照宮乃作し、以本陣の前に此中
に帰陣し、後にも彼地と申す、大坂の城
門と申す、惣堀と申す、事と役と 不文
系藩

一 元和元年、大坂再祀し、六月、日本
豊後、康紀宮城丹波、豊盛石川、伊豆、
貞信、府田、權、仿、正、時、遠、友、他、島、慶、隆、
麾下、陣、整、固、ら、て、復、素、と、申、す、高、安、
里、田、原、吸、も、て、行、軍、し、西、と、申、み、て、城、中
より、一、万、と、申、す、の、と、道、明、寺、へ、向、け、
行く、木、村、重、成、り、陣、し、ゆ、り、本、多、康、紀
此、組、の、長、と、申、す、南、へ、ゆ、く、入、り、す、り、も、速、

西にこそ彼大坂城を討て必く今日
功と之へしと大に進み響と西に向い
と申す事及助康後ういふく豊洲乃功と
之ん事と事にてしるすハ何事そ今日
此事ハ功と之んこと戰場へ押しにゆくは
麾下警固れ余とけしれさるる勢多に
みかき命と忘れ放に向はんこと何そや
と是と割中康紀誕しゆくく曰くいま

眼前に敵と見る何そ是と討さらんと
旗と西に進めく終にまに合しり
大之川

大坂陣記書

一 六月七日大坂合戦乃とき平多豊後康紀
松平筑前守陣地右の方。備と之合戦は
首二百十討取中此日康紀大に千貫矣
倉下下すも素込以て敵決絶胃の眉間。
申りそまふしけ陣。西り善あくし

取人長坂勅之節以於半在遠と申者討死
仕以中馮半之傍石志年内之遠多田之傍
日比野坊云右遠の極緒之助栄田半右末門
女藤之右遠中馮之右遠古全下之遠と申
者多負申以外是怪如討死任不意成り
一 元和九年秋之州是許にといく康紀
おれ以貴に

台禮院極一 中内書と下々れと云療

治信之入至月七補之恙に一 醫師去治
と作付し札登り以貴康紀九月廿六日相
果以是下依く去治ハ諸治下し江戸入る
啼り以 月三

伴勢子夏系忠利ハ豊後守康紀ノ長男
にシテ其ノ妹出羽ノ少慶長十八年

七月

右徳院殿より也澤乃字と賜り忠利
と名乗り伊勢守と稱し元和元年大坂
夏陣陣中より依奉し同年閏六月徳院
下より叙し同九年父才遺領と賜り
家としての寛永十一年閏八月之何國よ